

# 荒川区消防団運営委員会答申書

「変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上  
させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか」

令和7年3月5日

荒川区消防団運営委員会

## 目 次

第1	諮問事項	1
第2	諮問の趣旨	1
第3	課題と検討事項	1
第4	課題における現状と対応方針	1～5
第5	おわりに	5

### 【資料】

- 別紙1 荒川区消防団の構成状況
- 別紙2 荒川区消防団に対するアンケート結果

## 第1 諮問事項

「変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか」

## 第2 諮問の趣旨

特別区消防団は、地域になくってはならない代替性のない存在であり、地域防災力の中核として、住民の負託に応えてきたところである。

さらに、昨年(令和5年)は、関東大震災から100年の節目の年であるなど、消防団への期待はさらに高まっており、東京の安全安心を守っていくためには地域防災力の中核である消防団が、将来にわたって更に充実し、消防団としての役割を果たしていく必要がある。

一方で、特別区においては、人口が2035年ごろに減少に転じ、2050年をピークに高齢化が進行すると予測されているほか、近年は、DXの進展によるテレワークなどの働き方の多様化や、単身世帯の増加による地域コミュニティの希薄化など、社会情勢は常に変化している。

このことから、各消防団や各区の特性なども踏まえながら、変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策について諮問するものである。

## 第3 課題と検討事項

### 【課題1】

**地域防災の要である消防団として、変化及び成長していくことが重要**

(検討1-1)

入団し活動を継続したいと思える組織の活性化方策について

(検討1-2)

最新の技術等を考慮した活動環境の改善方策について

### 【課題2】

**活動力を地域で発揮していくことで、地域住民の負託に応え続けることが重要**

(検討2-1)

消防力維持のための計画的な人材育成方策について

(検討2-2)

地域に尽力している消防団を地域住民により知ってもらう方策について

## 第4 課題における現状と対応方針

上記課題における現状と対応方針について、荒川区内の消防団員を対象に実施したアンケート結果(別紙2「荒川区消防団に対するアンケート結果」参照)に基づき、以下のとおり検討した。

(検討1-1)

入団し活動を継続したいと思える組織の活性化方策について

## 1 現状（別紙2 Q10～21参照）

消防団組織の維持、活性化のためには、入団した団員が継続して活動できる環境づくりが重要である。そのためには、消防団活動が充実していることが必要となる。

消防団活動のやりがいについては、アンケート結果から多くの団員が、地域貢献、防災訓練、災害活動に対してやりがいを感じていることがわかる。事例として、独自で作った防災紙芝居の上演や消防団の活動の紹介など、地元の小学校で出前授業を実施している分団からは、地域防災力の強化につながっているとの実感から、こうした活動にやりがいを感じているとの意見もあがっている。

一方で、やりがいを感じていない理由としては、消防団の意義についての温度差、コミュニケーション不足、仕事や家庭の都合で活動に参加できない場合を感じるストレスなどの意見がある。

訓練、研修、資格取得の体制については、社会のニーズに合わせ、内容の充実や新たな研修・資格取得が必要であるとの意見があがっている。また、女性活躍を推進するためにも、女性団員への配慮が重要であり、家庭や子育てとの両立やトイレなどの施設面での配慮が必要であることがわかる。

## 2 対応方針

### (1) 消防団活動のやりがい強化

ア 火災や救命に関する実戦的な知識・技術の伸長を図り、災害活動や訓練指導という形で地域貢献を果たす。各分団独自の取り組みについても推奨し、地域貢献の活性化を図る。

イ リーダー研修等の実施によりリーダーの資質を高め、消防団内部における適正かつ円滑なコミュニケーションを促進する。

ウ 機能別消防団制度の周知により、消防団業務に必要な資格及び技術を有する人材を確保するとともに、活動を限定することで本業との両立を図る。

### (2) 訓練・研修・資格取得の拡充

ア 既存の訓練について、消防隊と連携した消火訓練、家屋破壊訓練、大規模対応訓練、国民保護における避難誘導訓練などの、実戦的な内容を導入する。

イ 防災士や救命講習のほか、今後活用が見込まれる、ドローン操縦資格、ITを活用した災害対応など実戦的な資格の取得を推進するとともに、団員としての資質の向上につながる研修受講等を推進する。

### (3) 女性が安心して活躍できる環境の整備

家事や子育てとの両立のため、活動内容を個々人の実状に合わせて選択できる体制や、トイレや更衣室など施設環境にも配慮し、女性がより活動しやすい環境作りを推進する。

## (検討1-2)

最新の技術等を考慮した活動環境の改善方策について

## 1 現状（別紙2 Q22～29参照）

技術の進歩やDXの進展により、消防団を取り巻く環境は大きく変化している中、災害発生時の連絡手段やタブレットを活用した新システムの導入、活動の効

率化・負担軽減のための新資機材の導入を進めるなど、活動環境を改善していく必要がある。

出場指令の伝達については、電話及び緊急伝達システムを活用することを原則としているが、利便性を理由に個人の携帯端末のアプリ（LINE）を利用している現状がある。

また、資料を共有するにあたり、紙媒体では、時間、労力、金銭的にも負担がかかっており、効率的で安定性の高い通信手段の確保と利便性の向上を図る必要がある。

資機材については、活動効率の向上や負担軽減を図るために、新たな資機材の導入について検討する必要がある。

## 2 対応方針

### (1) 通信手段の強化とDXの推進

ア 今後終了予定であるMCA無線は、現段階では同様の機種がなく新たな機種を検討する必要があることから、簡易無線機、400MHzの無線機、衛星電話などの活用について検討する。

イ スマートフォンが広く普及し生活の幅広い場面で利用される中、消防団活動においても個人所有端末の活用についても検討する。

ウ LINE、SNS、独自のアプリを活用するなど、電話や緊急伝達システムに代わる新たな出場指令の伝達方法について検討する。

エ 災害対応、指揮判断等ができるアプリの導入、二次元コードの活用による各種資機材の取扱い説明動画の導入などを検討する。

### (2) 利便性の向上や負担軽減が期待できる資機材の導入

ア 近年の気候変動による酷暑環境下での活動を考慮し、消防隊に配置されている物と同様の冷却ベストの配置を検討する。

イ ガンタイプノズルや50mmホースなど、消防隊と同様の放水器具や、ホース巻き取り機、バッテリー式の Cutter などの配置を検討する。

## (検討2-1)

消防力維持のための計画的な人材育成方策について

### 1 現状（別紙2 Q30～53参照）

大規模な地震災害や水害の発生が危惧されている中、消防団の消防力、災害対応力を維持するためには、今後さらに計画的かつ効果的に人材育成を行っていく必要がある。そのためには、経験が浅い消防団員への教育・訓練体制や、経験豊富な消防団員の研修や指導体制を強化するとともに、実戦的な消防活動能力の向上のため、現状の訓練内容や頻度について検討する必要がある。

また、操法訓練については、能力向上や結束を強める機会として肯定的な意見が多い一方で、実際の活動とかけ離れた部分が評価に含まれることや、競争要素が強く参加者が限定されることについて疑問があがっており、操法大会のあり方についても検討する必要がある。

## 2 対応方針

### (1) 教育・訓練体制等の強化

- ア 経験の浅い消防団員に対しては、教育・訓練体制を強化し、eラーニング、消防団員ハンドブックを活用した効果的な教養や教育訓練を入団時及び定期的に実施する。
- イ ハンドブックに準拠した内容の指導を実施し、到達度をチェックし可視化することで、指導者が代わっても統一的な指導ができる体制を検討する。
- ウ 特殊技能消防団員や消防団業務に有効な知識・技術を有する団員による講話や教養の機会を創出することで、消防団組織の活性化を図る。
- エ リーダー研修やハラスメント教養など、指導者の資質を高めるための研修・教養を実施する。

### (2) 実戦能力向上のための訓練内容の検討

- ア 操法訓練については、規律の向上、消防活動の基本技能の向上、団員間の結束強化において有効であるが、一方で、練習に多くの時間を割かれる、実戦で役立つとは思えない、時間の拘束が多すぎる、など否定的な意見も多いことから、より実戦に沿った内容への見直しが必要である。
- イ 操法訓練で基本を習得した後、より実戦的で火災現場に即した活動訓練を推進していく。
- ウ 実戦能力の向上には、火災対応訓練が必要であるとの意見が多いことから、訓練内容や目的の説明、訓練後の振り返り、消防隊の訓練の見取りなど、消防隊と連携した効果的な訓練及び教養を推進する。

### (検討2-2)

地域に尽力している消防団を地域住民により知ってもらう方策について

#### 1 現状（別紙2 Q54～59参照）

消防団の認知度を上げるためには、積極的な災害活動及び地域貢献により、消防団活動への信頼と理解を促進することが重要である。しかし、管轄区域内での災害が少なく、出動したとしても警戒やホース巻き程度の活動しかしないため、団員の災害活動に対する意識向上が図れず、積極的な災害活動が実施されていない現状である。

また、荒川区消防団は、定数に対する充足率が80%を下回っており、対象に応じたきめ細やかな広報や、平日昼間の災害対応力向上のために管内事業所に対し大規模災害団員制度を周知するなど、効果的に入団を促進し人材を確保することが重要である。入団を促進するためには、効果的な広報活動及び地域住民とコミュニケーションを取り合える関係性を築くことが重要であり、地域や学校での防災思想の普及や町会等の行う防災訓練への指導、地域の祭礼等の警戒活動により、消防団活動の普及活動を推進していく必要がある。

## 2 対応方針

### (1) 積極的な災害活動の定着

ア 定期的な実動訓練や消防隊と連携した実戦的な訓練の実施、過去の災害事例研究会の開催、技能に応じた認定制度の導入等により、実戦能力を高め、積極的な災害活動の実施を定着させる。

イ 町会との連携を深め、地域の災害危険箇所や要配慮者の事前把握に努める。

### (2) 入団促進のための効果的な広報活動の実施

ア 広報紙やSNSを効果的に活用し、地域特性や対象に応じたきめ細やかな広報活動を推進する。

イ 入団手続き方法を電子化することにより入団しやすい環境づくりを構築する。

ウ 区と連携し、管内事業所への大規模消防団員の入団促進を図る。

### (3) 地域コミュニティの構築による消防団活動に対する理解の促進

ア 消防団員が地域行事に積極的に参加し、実際にロープワークや放水訓練、などの消防団体験を積極的に推進し入団促進を図る。

イ 消防団が地域住民にとってより身近で頼られる存在となるよう、地域の防災リーダーとして、防災訓練等の計画段階から団員が積極的に参画していく。

ウ 地域の安全安心を担う小中学生や消防少年団等を対象に、消防団活動の紹介や操法大会の見学等により消防団員を間近で見る機会を作る。

エ 消防団活動の一環として中学校防災部と連携し、防災訓練指導や消防団PR資料を配布する等により、消防団の理解促進や防災意識の高揚を図る。

オ 現役消防団員との座談会、区域を超えた高校や大学での募集活動を行い地域住民が消防団の存在や活動内容を知るきっかけをつくる。

## 第5 おわりに

本委員会への諮問を受け、人口構成や就業形態の変化、地域社会の状況の大きな変化に対し消防団がどのように適応すべきか検討を重ね、特別区消防団の組織力を向上させるための方策について取りまとめた。

常に地域防災の中核となる消防団は、地域住民等が団員となって構成される組織であり、人口減少、高齢化といった社会構造の変化に大きく影響を受けることから、「地域防災の要である消防団として、変化及び成長していくこと」が重要である。

また、首都直下地震等の発生が危惧される中で、「活動力を地域で発揮していくことで、地域住民の負託に応え続けること」が重要である。

社会情勢の急速な変化に立ち遅れることなく、可能な限り速やかに所要の対策を講じることで、首都直下地震をはじめとした災害に対する地域防災の備えが、より強固なものとなることを強く望むものである。

別紙 1

荒川区内の消防団の現況

消防団は、荒川署、尾久署の2団で構成されており、令和6年11月1日現在、荒川区消防団の総団員数は384名であり、定数500名に対する充足率は76.8%となっている。

令和6年11月1日現在

荒川区消防団員人員状況について

	荒川消防団		尾久消防団	
定員	300名		200名	
現在員	224名		160名	
充足率	74.6%		80.0%	
性別 構成	男	女	男	女
	167名	57名	113名	47名

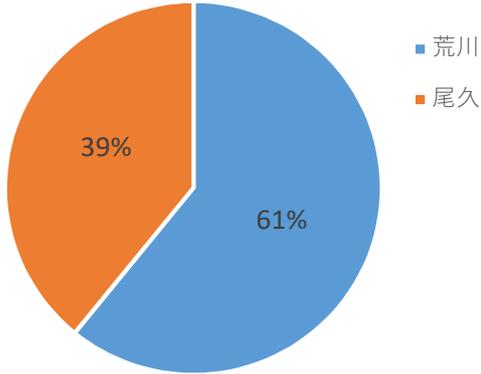
別紙 2

荒川区消防団に対するアンケート結果

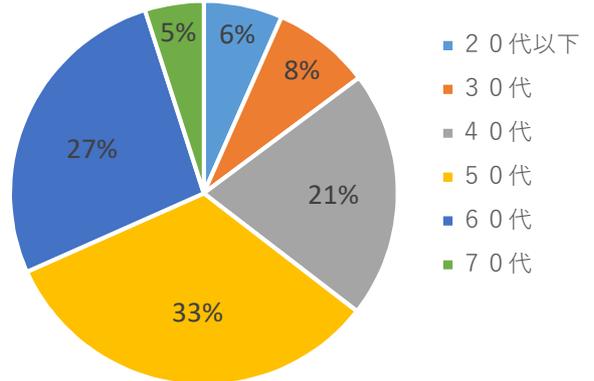
調査方法：東京消防庁公式アプリ

有効回答数：184

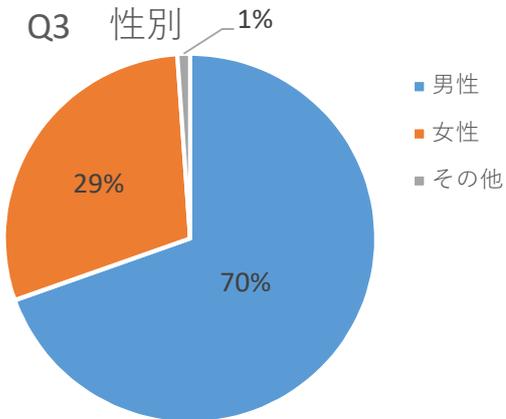
Q1 所属する消防団



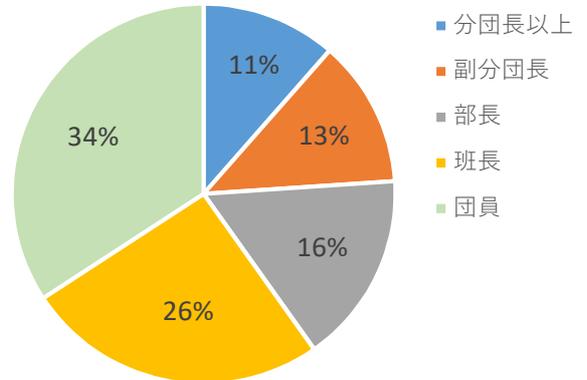
Q2 年代



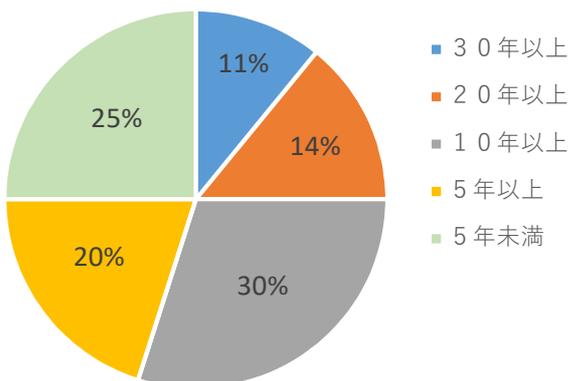
Q3 性別



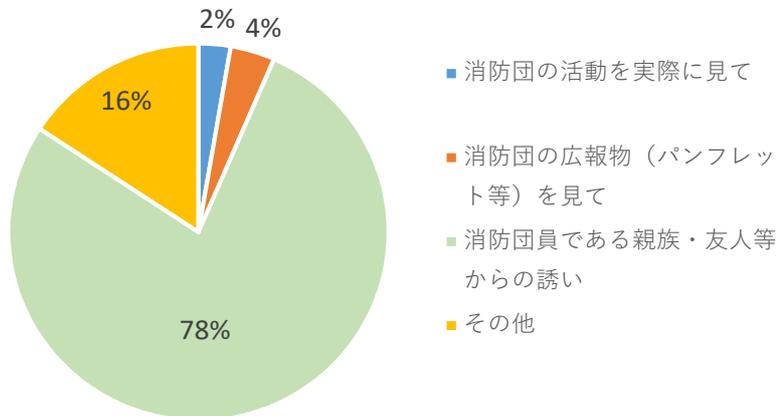
Q4 階級



Q5 勤続年数



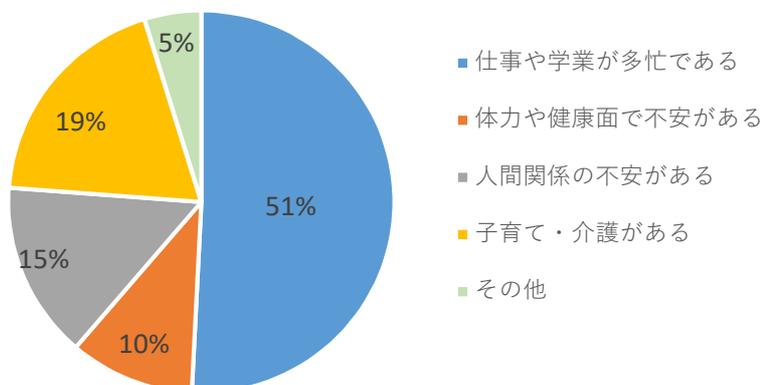
## Q6 入団のきっかけ



## Q7 前設問で「その他」と回答した方は内容を入力してください。

祭りの先輩の誘いで入団した。
荒川区に勤務地があり、事業所として入団要請があったため。
地域貢献のため。
地域のイベントに参加して。
企業の自衛消防隊に所属しており、東日本大震災を経験して地域の消防団の重要性を感じたから。
地元町会の先人に誘われて。
地域活動をしたかった。
知り合いが所属しており勧められた。
1995年の阪神淡路大震災時に、テレビで消防団員が活動している姿を見て入団した。
荒川区の講座で消防団の宣伝に惹かれた。
消防署で活動等の説明を聞いて。
興味があり入団した。
上級救命を家族のために 知識を得るため。

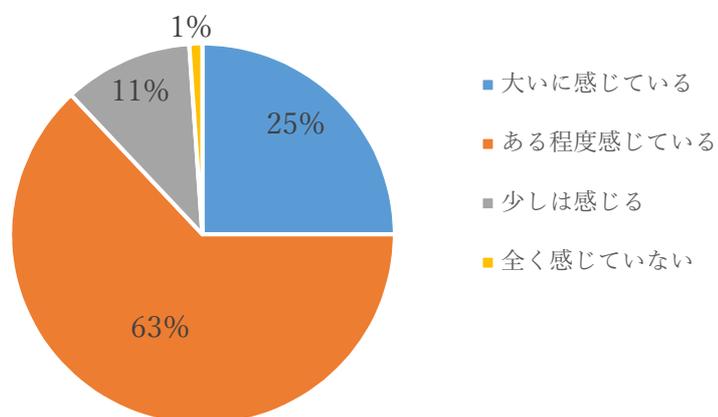
Q8 入団を勧誘する際の障害としてどんな要因があると思いますか



Q 9 その他と回答した方は内容を入力してください。

日曜日など活動で休みが取れない。
行事が多すぎる。
ポンプ操法の練習量の多さ。
活動が多く負担になると困る。
金銭面はメリットに感じてくれる人もいるが、地域の人々と関わると簡単に辞められないのではないかというイメージがあり、アルバイト感覚で参加できない。
消防団に対する興味がない。

Q10 あなたは消防団活動について「やりがい」をどのくらい感じていますか。



Q11 前設問で「少しは感じる」「全く感じていない」と回答した方へ、やりがいを感じない理由、どうしたら感じられるかをお聞かせください。

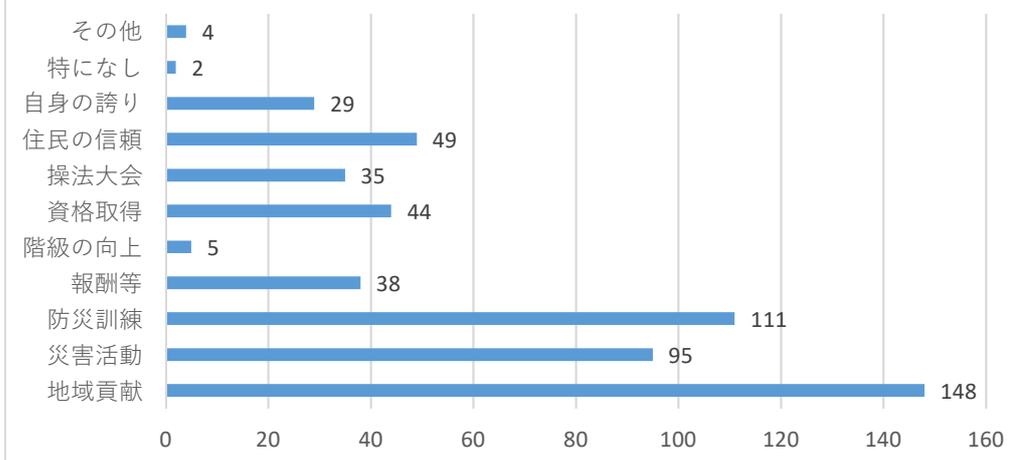
【やりがいを感じない理由】

消防団の意義について、一人一人の温度差がある。
個人スキルを高めるための研修等の機会が少ない。
円滑なコミュニケーションが不足している。
仕事や家庭の都合で活動に参加できない場合に感じるストレス。
行事参加を強要される雰囲気がある。
階級上位者のリーダーシップがない。
操法大会のように実用性のないものは廃止し、防災訓練や応急処置など、災害時に役立つ実践で対応できるものを増やしてほしい。

【どうしたらやりがいを感じるか】

防災訓練や応急救護、災害時に役立つロープワークなど実戦的な訓練の実施
コミュニケーションスキルの向上を図るため研修会を実施
出来ることが少ないから、もう少し勉強する機会があると良い。
自身のスキルの向上
階級上位者へのリーダー研修

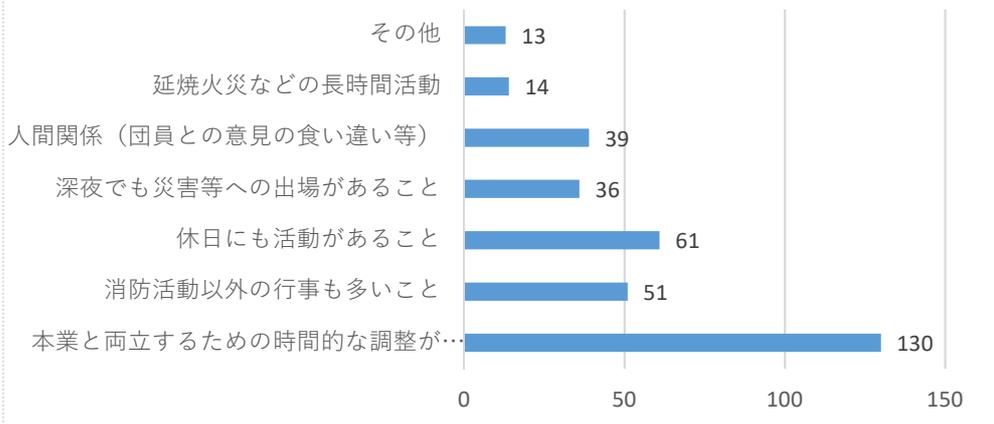
Q12 消防団活動で「やりがいを感じる」と思うことをお聞かせください。(複数回答可)



Q13 前設問で「その他」と回答した方は内容を入力してください。

我が分団では、地元小学校にて独自で作った防災紙芝居を上演したり、消防団の役割についてパワーポイントを使って説明するなど、ゲストティーチャーとして出前授業を行っている。子供達から「大人になったらぼくも消防団になりたい。」など感想をいただくことも多く、こうした取り組みが将来の地域防災の大きな力になると確信する。
横のつながりが広がり、地域社会の一員であるという自覚が生じる。
団員間で交流し、人間関係が構築できる。

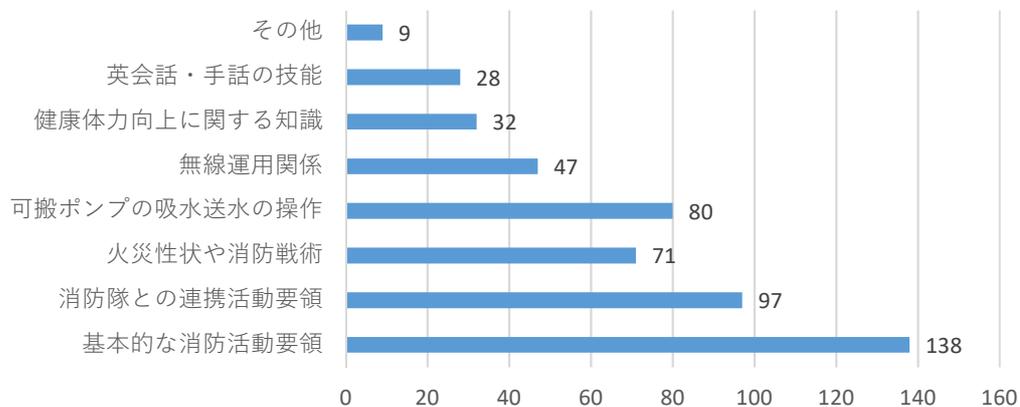
Q14 消防団員を続けるなかで、負担を感じていることはありますか。（複数回答可）



Q15 前設問で「その他」と回答した方は内容を入力してください。

本業が平日休みなので、訓練等に参加しにくい。就業不能時間の確実な補償及び勤務先への消防署からの説明が必要
趣味や子ども行事との両立のための調整が難しい。
操法大会の訓練
1回の拘束時間が長く休憩がない。
家事との両立が難しい。
ルールを守らない団員がいること。
今のところ負担に感じる事はほとんどない。
とても有意義である。

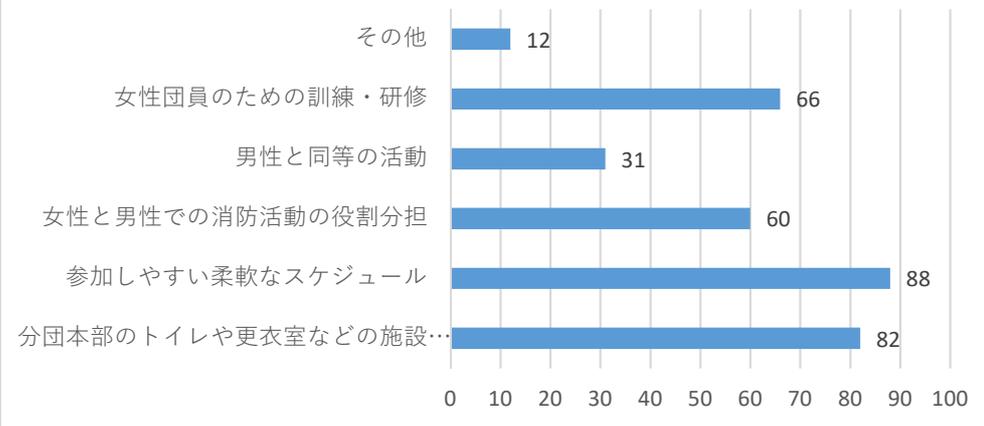
Q16 訓練や研修、教養等でより充実させた方が  
良いものはありますか。（複数回答可）



Q17 前設問で「その他」と回答した方は内容を入力してください。

現在でも大変であり、これ以上増やさないで欲しい。
有事の際の本当に必要な知識と区との連携
避難所運営訓練
プロの訓練を間近で拝見させてほしい。プロとアマチュアの違いをしっかりと教えてあげてほしい。
救急救命の技術や資格取得
防災知識、大規模な災害時対応、災害時の避難誘導、国民保護訓練、法令理解、ハラスメント防止、災害のメカニズムや防災に関する知識
部長以上に対するコミュニケーションスキル向上の為の研修

Q18 女性団員への対応や配慮において必要だ  
 と思うことはありますか。（複数回答可）

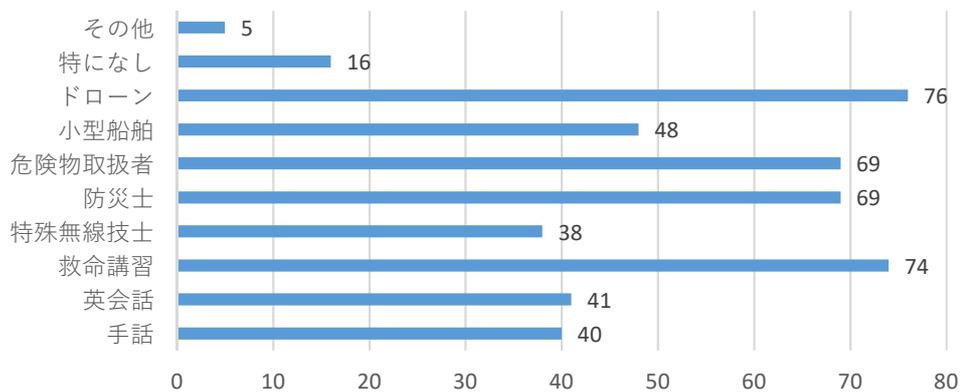


Q19 前設問で「その他」と回答した方は内容を入力してください。

災害現場のトイレについて。
女性、男性の区別はない方が良い。
子連れで訓練や行事に参加できる体制整備や、意識改革をしてほしい。
家庭や仕事の事情で活動に参加出来ない。
訓練、研修時の子どもの預かりや、子どもと一緒に参加できる活動や、消火活動以外の活動など、活動を選べるようにするなど、柔軟性を高めてほしい。
実際の活動は男女分担があったほうが良いが、訓練は男女同等としてほしい。
大災害時には、女性も男性と同じように災害活動に従事しなければならないと覚悟すべきではあるが、平時にできる活動も考えていくべきだと思う。
小中学校での出前授業などは、女性団員が大いに活躍できる場である。女性団員の中にはPPTA役員などで活躍されている方もいる。子供達にとっても、見慣れたお母さんたちが消防団として授業に来てくれれば、興味の持ち方が違ってくる。子供の頃から消防団を身近に感じてくれれば、彼らが大人になった時に消防団への入団も抵抗が少ないのでは、学校と連携して子供たちと触れ合うことは、未来への投資だと考える。

Q20 消防団活動において希望する資格取得、  
講座受講があればお答えください。

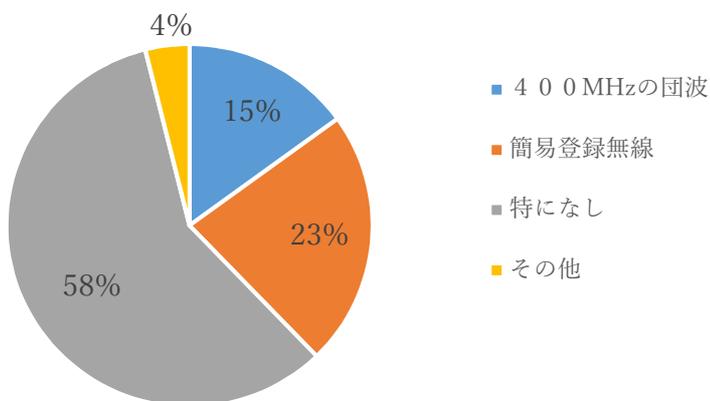
(複数回答可)



Q21 前設問で「その他」と回答した方は内容を入力してください。

実践的な家屋破壊訓練
傾聴やメンタル相談、ジェンダーやアンコンシャスバイアスに関する知識と対応技能
有事の時に使える IT を活用した現場報告訓練、IT リテラシー。
介護技術的な講座や障害者等の関わり方の講座

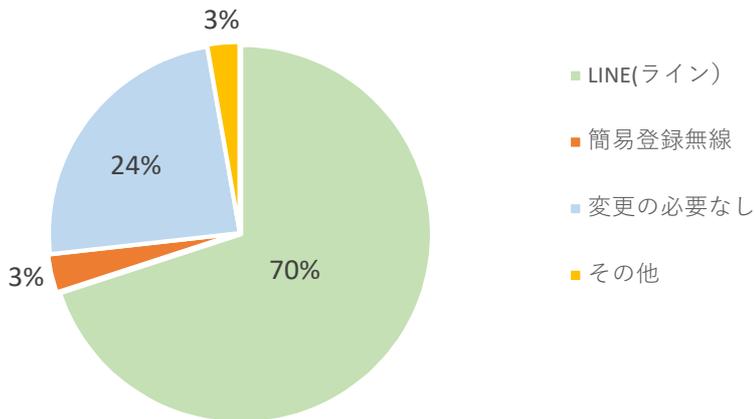
Q22 MCA無線に代わる無線機等について希望をお答えください。



Q23 前設問で「その他」と回答した方は内容を入力してください。

分団センター、詰め所におけるネットワーク整備
モバイル Wi-Fi ではなく、ルーターの設置
現状は通信会社のアンテナが充実しているのでスマホに頼ってしまう。
衛星電話
MCA より繋がりやすい無線機ならば何でも良い。

Q24 電話や緊急伝達システムに代わる新たな出場  
指令の伝達方法についてお聞かせください

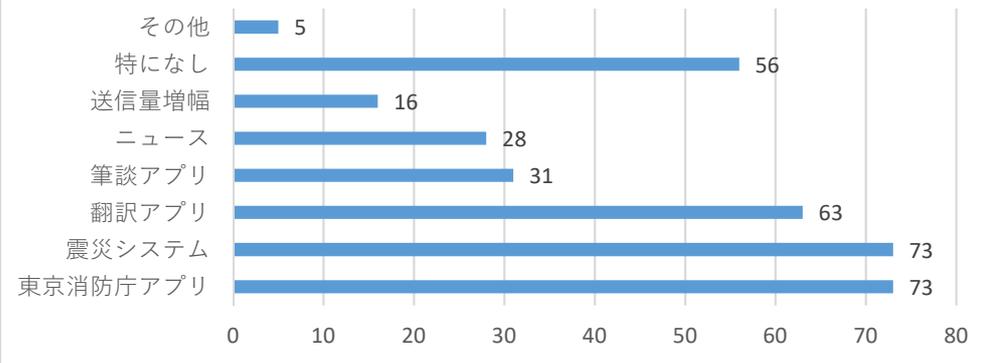


Q25 前設問で「その他」と回答した方は内容を入力してください。

基本的に LINE で十分であると思うが秘匿性を高めたいのであれば signal を活用するのも良い。
スマートフォンの緊急伝達システムはとても良く、各個人がほとんど愛用しているスマートフォンからの発信を希望する。
SMS や独自アプリ

Q26 タブレット端末に新たに導入を希望する  
アプリやシステムはありますか。

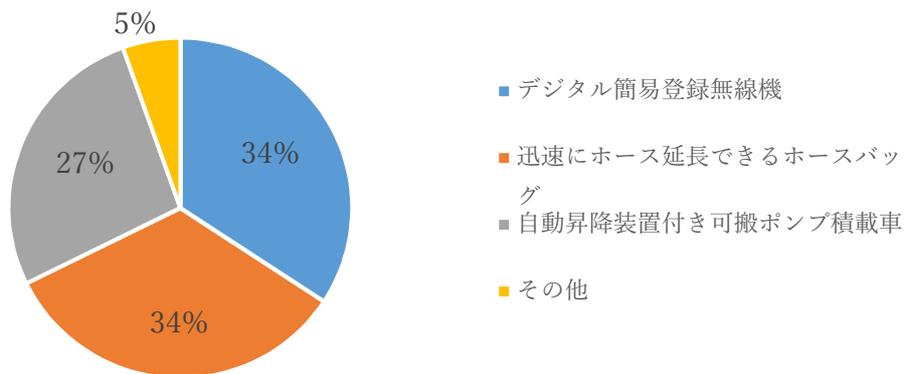
(複数回答可)



Q27 前設問で「その他」と回答した方は内容を入力してください。

有事の際に円滑に情報が集約できるアプリ
出場報告、WEB会議システム
グーグル機能やニュースを視聴できる機能
FM視聴アプリ
消防団で活用できるパソコンや資料をストックできる無料のクラウド機能

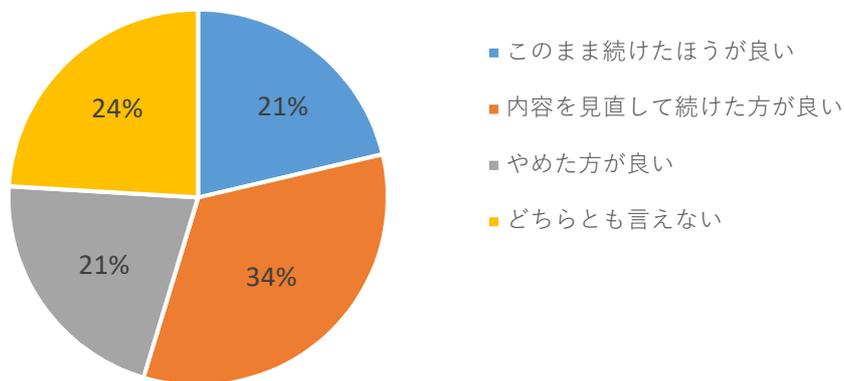
Q28 利便性の向上や、負担軽減が期待できる資器材  
があればお答えください



Q29 前設問で「その他」と回答した方は内容を入力してください。

ホース巻き器
操法大会で可搬ポンプを運搬する際のトラックのレンタルサポート
インパクトドライバー、レシプロ
署隊と同様の放水器具
50ミリホース、50ミリ噴霧付き正管そう
ガンタイプノズル

Q30 操法大会についてどう思いますか



Q31 前設問で「このまま続けたほうが良い」と回答した方は内容を入力してください。

団員の信頼関係が深まる。
一定期間分団全体で取り組む事により、個々の能力や特性を把握することが出来るから。
ポンプ操法を通じて、活動が学べる。基本能力の向上の為
分団の士気が向上するため。
団員としての基本的な技術、資機材の取り扱いの習得のため。
操法大会の結果よりも、練習の過程において団員のコミュニケーションがはかれるのが良い。

操法の練習は新人の団の仲間意識を高める事が出来る。
基本操法大会に向けて集中して訓練に取り組むことにより、動作は勿論の事、資機材愛護・安全管理等を学べる事ができるので続けるべきである。
このままでもよいが、しっかりと指導を受けたい。
実際の現場でも機材を扱う操作などを素早く行うことができるため。また、練習を通じて様々な資機材の名前を覚えることができるため。
可搬ポンプの使い方を覚えられる。
震災では不可欠な消火方法だと思うから。

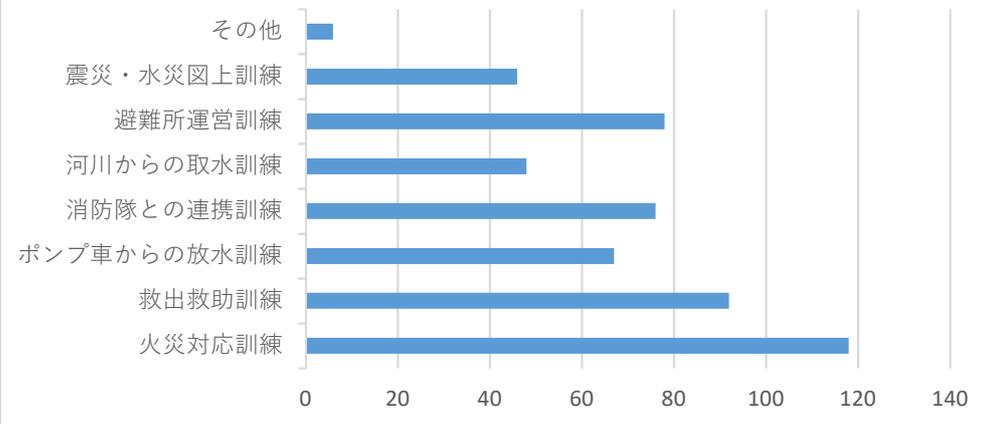
Q32 前設問で「やめた方が良い」と回答した方は内容を入力してください。

ただでさえ仕事が忙しいのに、参加できない。
練習に多くの時間を割かれる。
出場する選手がほぼ決まっているため、1～2年で順番が回ってくる。
操法があることで新規に入団する人が減っている。
可搬ポンプの取り扱いを全団員の指導の時間に使うべき。
全員が出来るような訓練のほうが良い。訓練場所がない、実践的ではない。
非常に負担が大きく、参加する団員、参加しない団員の差異が激しく不公平感がある。
訓練場が未整備のため、訓練に多大な人員負担がかかる。
順位を争うあまり、無駄な規律訓練と化している。
選手が偏り、団員全員のレベルアップに繋がらない。
実際の消防団の実態（活動内容）とはかけ離れていると感じるため必要性を感じない。
現状の操法大会のあり方については、選手・指導者共に年間の消防団活動において一番の負担(時間的・体力的・経済的・ケガのリスク等)になっていると感じる。
緊急出動時 参集人員で隊を編成することになり、本業のある消防団員だと1番員の経験者がいないだけで隊の編成が困難である。
大会の成績で団員意識の優劣が生じ易い。採点での基準が分かりづらい。
可搬ポンプの仕様と扱いを重要視の方が良い。
消防団員の検定（技能確認）を作る。

Q33 前設問で「内容を見直して続けた方が良い」と回答した方は内容をを入力してください。

順位によらず検定方式で全体の底上げと技能の効果測定に重きを置くなど、やり方を変えた方が良い。
操法大会の訓練は、火災活動における基本的な動きを身に付ける訓練だと思う。しかし、規律の動きに関しては余り必要ないと思う。
「武道の形」のように、必要なことではあるので続けてほしい。一方で、様々な理由で選手になれない団員もいる（生活、仕事の事情など）ので、ポンプ操法大会以外でも可搬ポンプを使う訓練機会を設けてほしい。現状では、ポンプ操法大会の精神的な意義（団員の団結が深まるなど）が強調されて「訓練のための訓練」となっている感が否めない。
操法の内容を実際の火災出動に当てはめてやる。場合によっては各区でオリジナルな大会を数年に一度位やってもいいのではないか。
操法を取得することが目的なら、年に3から4回ぐらいに分けても良いのでは？ 各分団から各1隊の参加が必須なのは明らかに負担が過大。各団の大会は廃止して、都大会の出場希望者を各分団から募り、隊が団内で成立すれば出場という形にすれば良いと思う。（応募者多数の場合のみ団内選考会を実施しては如何か？）
審査方法の改善、各団員の年齢や人数の差を埋めること。
都大会との審査基準の違いなど、正解がよくわからない中で減点されたりしている。この点を是正し、統一基準を作った上での大会としていただきたい。
訓練期間を短くして団員の負担のない方法を考える。
年齢などのハンデなども盛り込んで欲しい。
広く団員の意見を聞いてから大会内容を決めて欲しい。
総訓練時間に制限を設ける。出場選手5名の総年齢に上限及び下限を設ける。
女性隊を数隊つくり、女性隊を活用するような内容の構築

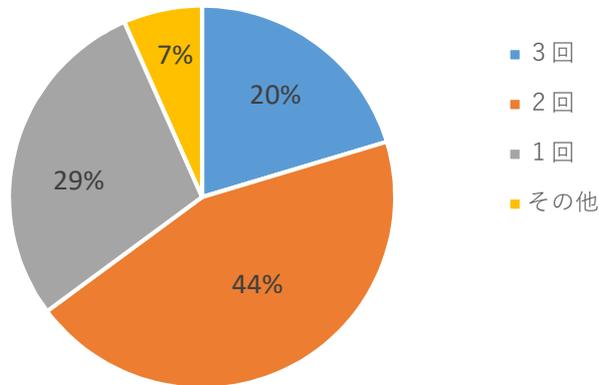
Q34 実践的な訓練はどのような訓練を希望しますか。（複数回答可）



Q35 前設問で「その他」と回答した方は内容を入力してください。

家屋解体訓練
震災時の避難誘導訓練やトリアージ、応急処置など。
炊き出し訓練
女性中心の避難所運営訓練
実戦的訓練の前に時間をとり、訓練の流れや訓練要領の事前説明

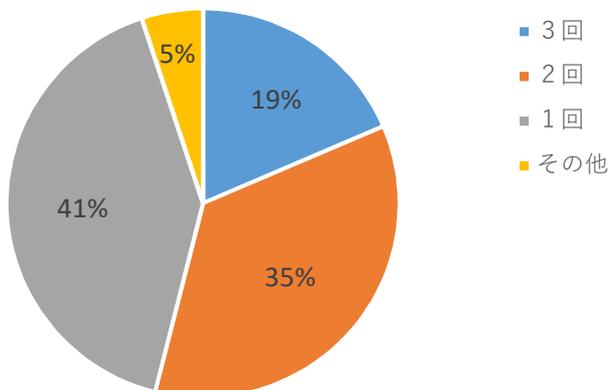
Q36 火災対応訓練の希望回数（年間）



Q37 前設問で「その他」と回答した方は内容を入力してください。

火災対応訓練であれば適時に実施
可能な限り実施
月に1回程度
多ければ多いほど良い。
年に3回は少なすぎるので、毎月の定例会などを利用して図上訓練(火災対応)を実施
消防隊の訓練等（公開）見取り訓練を増やしてほしい。

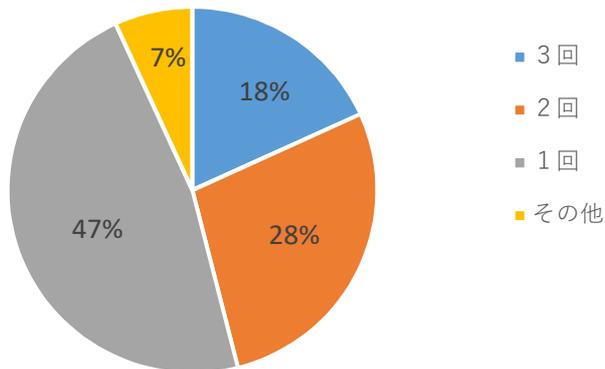
Q38 救出救助訓練の希望回数（年間）



Q39 前設問で「その他」と回答した方は内容を入力してください。

訓練回数は随意で良い。
多ければ多いほど良い。
適宜実施することが必要である。回数は決められない。
消防隊の訓練等（公開）見取り訓練を増やしてほしい。

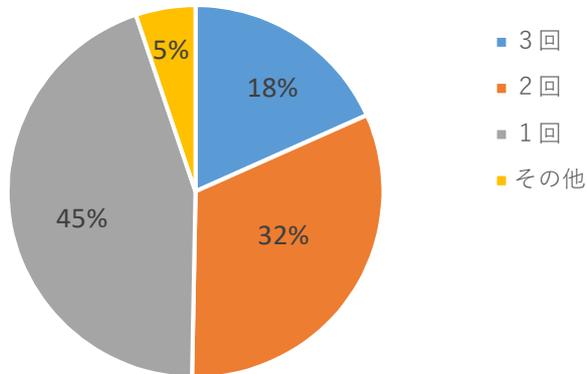
Q40 ポンプ車からの放水訓練の希望回数（年間）



Q41 前設問で「その他」と回答した方は内容を入力してください。

ポンプ操法があれば隔年で良い。
訓練回数は随意で良い。
多ければ多いほど良い。
月に1回
適時に実施
消防隊の訓練等（公開）見取り訓練を増やしてほしい。

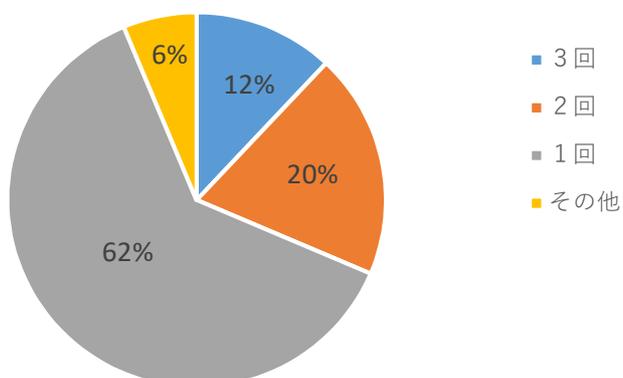
Q42 消防隊との連携訓練の希望回数（年間）



Q43 前設問で「その他」と回答した方は内容を入力してください。

可能な限り実施する。
土・日・祭日以外にも実施
多ければ多いほど良い。
月に1回実施
適時に実施

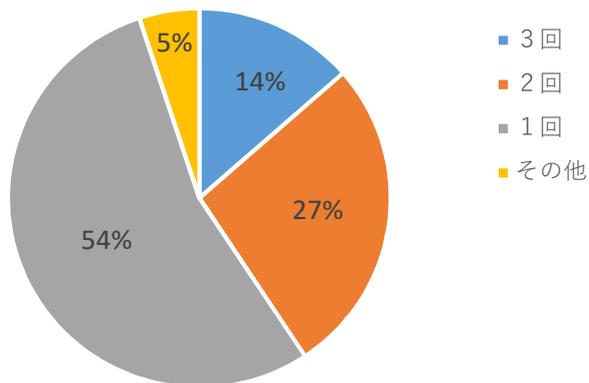
Q44 河川からの取水訓練の希望回数（年間）



Q45 前設問で「その他」と回答した方は内容を入力してください。

あまり必要性を感じない。
河川からの取水は、汚い水をポンプに通すことになり、ポンプの洗浄に時間と労力がかかることなどから実施しない方が良い。
土・日・祭日以外にも実施
多ければ多いほど良い。

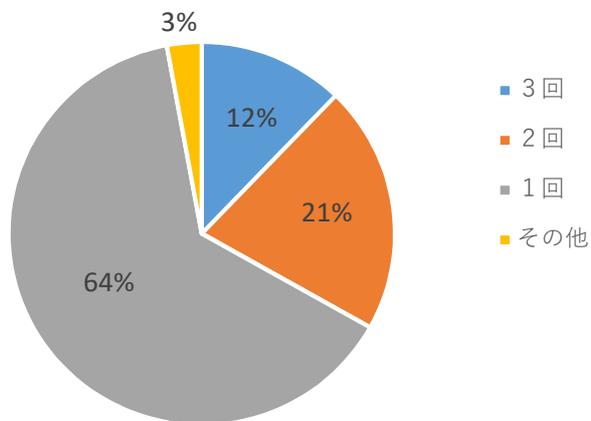
Q46 避難所運営訓練の希望回数（年間）



Q47 前設問で「その他」と回答した方は内容を入力してください。

避難所運営訓練は、地元の町会などで行うべき。（区主体で）
多ければ多いほど良い。
土・日・祭日以外にも実施
適時に実施

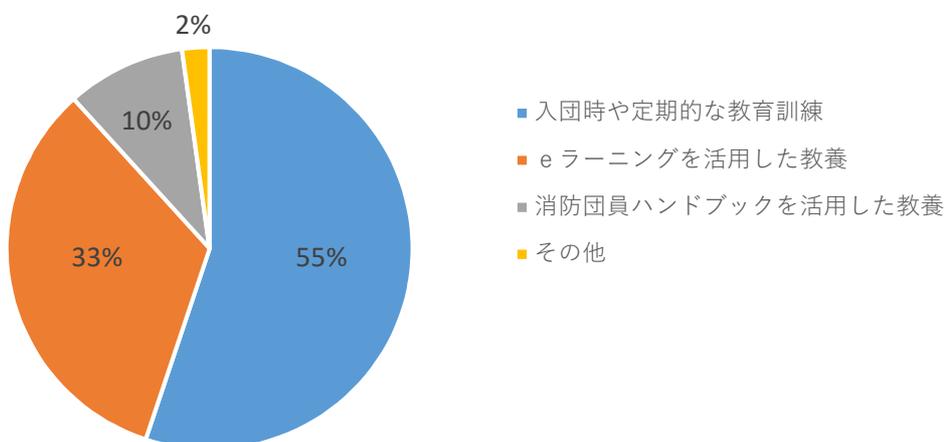
Q48 震災・水災凶上訓練の希望回数（年間）



Q49 前設問で「その他」と回答した方は内容を入力してください。

土・日・祭日以外にも実施
多ければ多いほど良い。
日曜日の訓練を強く望む。
適時に実施

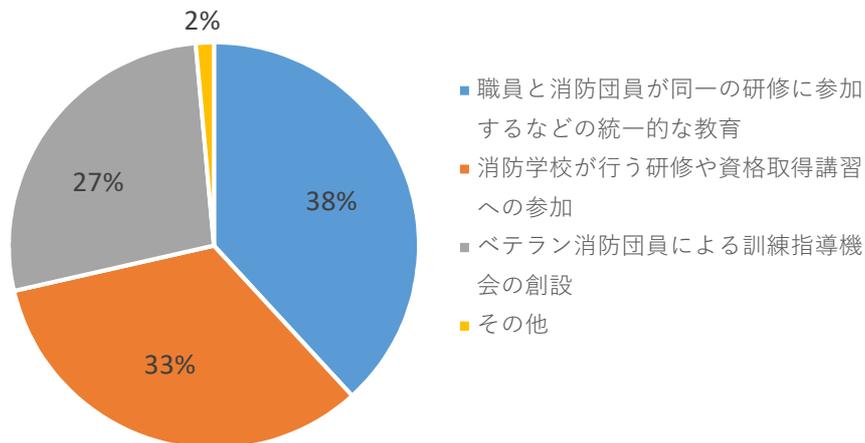
Q50 経験が浅い団員への効果的な教育訓練方法



Q51 前設問で「その他」と回答した方は内容を入力してください。

ポンプ整備などを利用してポンプ取扱い教養を実施
消防団員初級認定試験を実施
規律訓練を実施
順番に操法訓練を実施。但し、順位は競わせず公平な合格ラインを設ける。
先輩たちと共に訓練に取り組んでいく。

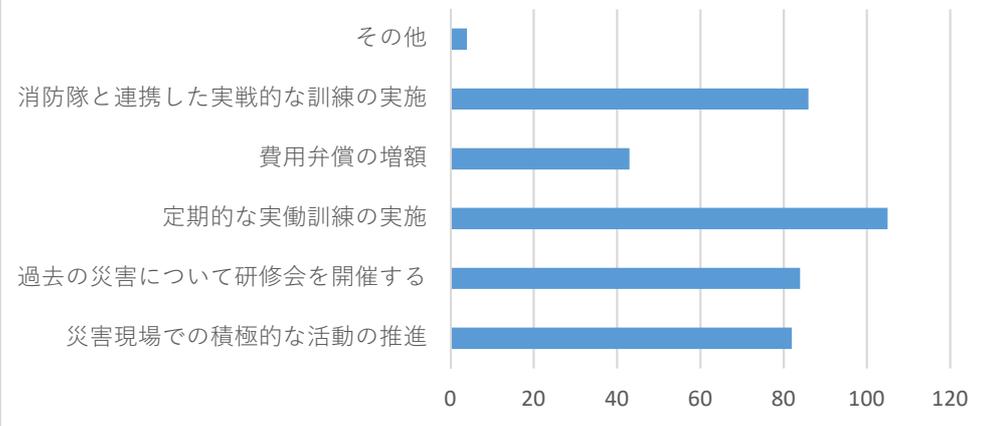
Q52 経験豊富な消防団員による指導体制  
を強化するために効果的なもの



Q53 前設問で「その他」と回答した方は内容を入力してください。

ハンドブックに準拠した内容から指導
ハラスメント教養。(指導スキルの訓練など)
分団単位の活動に合わせた座学教養
後方支援の連携訓練
指導者によるバラつきが出ないように、指導方法を統一する必要がある。

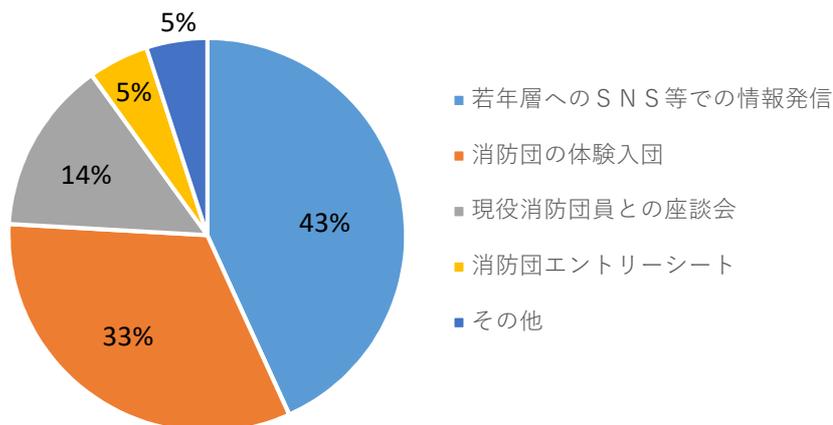
Q54 消防団員が災害従事する意識向上のため  
に有効だと思われる方策（複数回答可）



Q55 前設問で「その他」と回答した方は内容を入力してください。

スキルに応じた認定制度、それに伴う報酬や階級
実際にどういうことをやるか具体的な説明
活動人員が少ないので分団区分をなくし全員活動

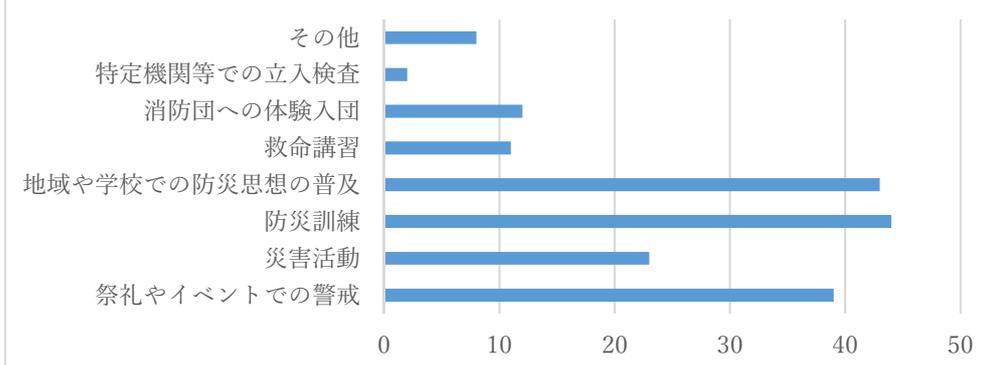
Q56 消防団員の入団を促進するために  
はどのような広報が必要か



Q57 前設問で「その他」と回答した方は内容を入力してください。

イベント体験時に楽しみながら学ぶ。
区域を超えた高校・大学での募集活動
YouTube やテレビ、街頭や電車内でのデジタルサイネージなどでのCMの放映
高等学校と連携し「総合的な探究の時間」の授業において、2～3時間程度の時間を設けさせてもらい、消防団活動のPRを実施
消防少年団と消防団の間に、もう一つ消防団に入る前に中間層の中間消防団を設ける。 (中学校には防災部があるので)
SNSについて、発信のルールを決めたくえで活用するよう促してほしい。
企業への理解促進、新入社員を社内に拘束してボランティアを認めない場合がある。
一般への理解促進、消防団員を主人公としたアニメ、映画、ドラマ、小説、CMなど。
大学や専門学校での出前授業を施策として展開すべき。
消防団の装備の見た目を消防隊に似せる。
消防隊との交流会
中学校の防災部は任意で体験入団してもらい、入団資格を得た後で複数人同時に入団したくなるような働きかけ。
身体を使う消防エクササイズを作る。
技術認定制度の創設
若い青年との交流の機会を設ける。(小学校の父兄参観日などに場を設ける)

Q58 地域からより理解と信頼を得る消防団となるために必要と思われる活動をお答えください。



Q59 前設間で「その他」と回答した方は内容を入力してください。

福祉施設、病院の避難訓練に参加
有事の時には消防団が頼りになるという認識を持ってもらうことであることから、スキルを向上させる。
現場活動で役に立つ知識と技能を持ち合わせた団員教育・研修の充実
※祭礼警戒、災害活動、防災訓練、防災思想の普及、救命講習、体験入団の回答あり。